いいやま

いいまち

広小路

プロジェクト

そして、未来へ

芸術、まちの再生、賑わい創出

——by TAKUBO

田窪恭治　Kyoji TAKUBO

美術家

多摩美術大学客員教授・聖心女子大学講師

ノルマンディー「サンヴィゴール・ドゥ・ミュー礼拝堂」の再生プロジェクトや、「琴平山再生計画」で知られる。1999年村野藤吾賞、2000年フランス芸術文化勲章　＜オフィシエ＞受賞。著書に『林檎の礼拝堂』『表現の現場・マチス、北斎、そしてタクボ』など。

牧師様のいない飯山復活教会を再生、田窪恭治とともに広場をつくりたい

飯山市にカナダ人宣教師のジョン・ゲージ・ウォーラーがやってきたのが1893年のこと。伝道を続けて40年、1932年に「飯山復活教会」が竣工しました。放射状に組まれた羽目板が端整な表情を生みだします。その教会に牧師様がいなくなって20年、信徒は12名ほど。高齢化も進み、教会の未来が案じられていたとき、教会と前を走る〝広小路〟を再生しようと、地元有志が「いいやま広小路会議」が立ち上げました。

代表の田中隆太さんは、「今まで以上に今までらしい飯山を残したい。目先のことではなく、子どもたちに何を伝えたいかが大切だと思います」。誇れるまちを、未来へ。そんな思いを抱いて活動するなかで、美術家の田窪恭治さんに出会います。

田窪さんは家族とともにノルマンディーに移住し、サン・ヴィゴール・ド・ミュー礼拝堂の再生に取り組んだかたです。再生に要した時間は約10年。見知らぬ地に暮らし、地域の人と心を通わしながら礼拝堂と地域に深い愛情を注ぎ、人々から愛される場所として再生しました。その様に田中さんは強く心打たれます。そして、田窪さんに「夢を描いてほしい」とお願いしたのです。一方の田窪さんは、飯山復活教会を目にしたとき、林檎の礼拝堂に出会ったときのような運命を感じました。というのも、そのシルエットが、林檎の礼拝堂と驚くほど似ていたのです。「できるかできないかではない、人生は限られている、人をしあわせにするのは夢なんです」。田窪さんはそう言って、音や光があふれるようなスケッチを描きました。そして「いいやまいいまち広小路プロジェクト」は動きだしたのです。

教会と広小路、ひいては広場の整備に向けて、まずは参道脇に緑と花を整備から取り組みます。使う素材は*CORQ®（コルク）。年を経るごとにさび、自らのさびがそれ以上の腐食を防ぐという特性を持つ鋳物です。さび＝〝さ美〟は、日本の情緒「侘び寂び」に通じる美しい風景をつくりだします。それは飯山と強くリンクする風景でもあります。飯山の多くの道路は、融雪のために流す地下水に含まれる鉄分で赤茶色のさびに染っているのです。豪雪地飯山を象徴する〝さ美〟の風景とCORQ®のある風景は、強く結びつきあうのです。いいやま広小路会議は、本プロジェクトに賛同してくださるかたを募っています。まずはCORQ®の参道づくりから。田窪さんとともに〝さ美〟のある風景をつくりませんか。

田窪さんによるスケッチ

***CORQ®とは**

コルテン鋼という、さびでさびを防ぐ鋳物。田窪さんが林檎の礼拝堂の再生の最後に、地域に密着する自身の「感覚細胞」として新日鐵住金と協同で生み出しました。

表写真｜竣工時（1932年）の飯山復活教会
裏写真｜ライトアップされた飯山復活教会
（撮影／関 善夫）

問合せ先
いいやま広小路会議 事務局
長野県飯山市飯山 1110-1
TEL 0269-62-3111（飯山市商工観光課）